ＪＡ自己改革推進レポートについて

令和５年７月２５日
ＪＡ鳥取県中央会

１．ＪＡ自己改革実践状況

（１）ＪＡ鳥取中央の取り組み

①白ネギ防除ドローンで少量高濃度の農薬散布

ＪＡ鳥取中央関金白ネギ生産部は、６月６日、倉吉市でドローンによる白ネギ防除作業実演会を開いた。ＪＡでは白ネギのドローン防除は初の試み。生産者や行政、メーカー、ＪＡ関係者ら約３０人が参加した。

高度２㍍から少量高濃度の農薬を散布するドローン防除で適正な防除効果を得られるかを確かめる。６月～１１月に６回散布し、動力噴霧器で散布する区画との違いを検証する。

同部の前田直樹さんは「ドローン防除は作業時間が少なく、労力も掛からない。防除効果が確認されれば導入を考えたい」と話した。

②倉吉梨生産部会　産地体験会

ＪＡ鳥取中央は６月１０日、行政と連携し倉吉市で梨の産地体験会を開いた。梨の栽培や定住を検討する鳥取県立農業大学校の学生など７人が参加した。参加者は、忰谷団地で梨を栽培する倉吉梨生産部会の田島嗣規さんのほ場で果樹栽培特有の作業でもある袋掛けを体験した。生産者との交流や生産現場での作業体験を通じて就農希望者が抱える問題を把握し、支援することで担い手の確保を図る。

農業大学校で花きコースを受講する芝田海斗さんは「花の栽培との違いも分かってとても良い経験になった。９月の収穫体験にも参加したい」と話した。

③食のみやこフェスティバルで県生協と連携

令和５年、ＪＡ鳥取中央はＡコープなどライフライン店舗を閉店する。ＪＡ鳥取中央と鳥取県生協は持続可能な地域社会づくりに向けた連携協定を結び、互いのイベントへの出店や支所窓口での生協加入手続きなどライフライン店舗閉店による買物への不安を取り除く取り組みを行っている。

ＪＡ鳥取中央と県生協は６月１０日、１１日に開催された食のみやこフェスティバルで生協アンケートブースを出店し、合同で運営した。

ブースでは宅配の申し込みなど生協加入の希望や生協についての印象、買物の手段についてのアンケートが実施され、回答に協力してくれた人には生協での人気商品でもある大豆ドライパックとひじきドライパックをプレゼントした。

予想を超える人数の回答が得られ、用意していたプレゼントも１１日の昼過ぎにはなくなるなど大盛況となった。来場者の中には生協の加入についての説明を希望する人もおり、ニーズ調査や加入促進として成果が得られた。

今後も連携を続け、互いの組合員や地域住民のための取り組みを実施する。

以上